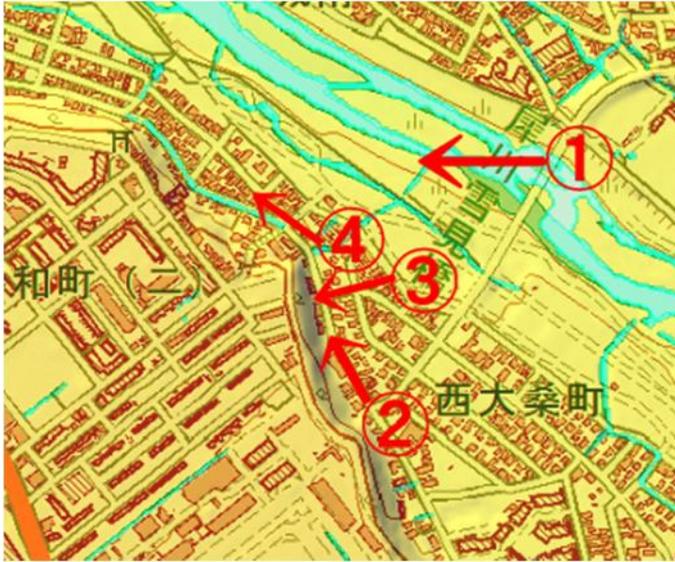


## 「金沢の地形(6) 寺町段丘の段丘崖」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

比高25mもある、寺町段丘の段丘崖の下を「歩いて」みよう。金沢版の「はけの道」である。図の番号は写真の番号、矢印は「撮影」の向きである。



③の崖下。土止め工事を行っているようだ。一般に段丘崖は浸食されやすい。特に上部の砂礫層は、続成作用(土砂が岩石化する過程)が進んでいないので、土砂崩れを起こしやすいのだ。日常的に「段丘崖の補修」が必要なのだろう。

まずは、①の雪見橋上から、段丘崖を遠望してみよう。犀川の河川敷の左岸に、高台が続いている。高台の上面が寺町段丘(中位段丘面)、斜面の森が段丘崖である。さすがに比高が25mもあるので、段丘崖の存在がはっきりとわかる。



②の段丘崖下の道である。崖すれすれまで住宅が立ち並んでいる。ここは、十一屋小学校の通学路になっている。子どもたちは、毎日段丘崖を「観察」しながら通学していることになる。



④の崖下である。崖の高さは25mもないように見える。これは、建物の建っている場所が、すでに犀川沖積地よりも一段高い、下位段丘面の上だからである。この建物は土砂崩れが心配されるが、背後が竹林なので、大丈夫だろう。明日は浅野川へ行ってみよう。